式 辞

日毎に明るさを増す朝夕の日差しに新しい春の訪れを感じる今日の佳き日に、多数の御来賓の皆様の御臨席を賜り、令和六年度愛媛県立松山南高等学校卒業証書授与式をかくも盛大に挙行できますことは、我々教職員一同、この上ない喜びであり、御臨席を賜りました皆様方に厚くお礼を申し上げます。

また、卒業生の保護者の皆様には、入学以来三年間、健やかな成長を願い、支えてこられましたその愛の深さに、心から敬意を表しますとともに、本日、晴れて御卒業の日を迎えられましたことに心からお喜びを申し上げます。

さて、ただ今、卒業証書を授与いたしました卒業生の皆さん、おめでとうございます。皆さんの胸中には、この三年間の数々の思い出が次々と去来していることと思います。これからそれぞれ進む道は違いますが、この松山南高校で多くの友と熱く過ごした青春の一こま一こまを一生の宝物として、いつまでも大切にしてほしいと思います。私は、皆さんとは、一年だけのお付き合いでしたが、皆さんの日々の学習活動、体育祭や文化祭、ブロックマッチなどの行事への取り組み、部活動などでの活躍ぶり、また、それらのあらゆる場面で発揮された、下級生を導く力強いリーダーシップ、また、リーダーを支えるフォロワーシップにいつも感心させられていました。そして、毎日の皆さんの元気なあいさつやにこやかな笑顔、さりげない優しさにふれる度に、たくさんの勇気と力をもらいました。本当にありがとう。縁あって、南高で皆さんと巡り会い、学校生活を共にできたことを、心から感謝しています。

阪神・淡路大震災から30年となった今年1月、震災の年にオリックスのリーグ優勝を支え、その後アメリカで大活躍した元メジャーリーガー、イチローさんが、有資格1年目で日本とアメリカそれぞれの野球殿堂入りを果たしました。早くから殿堂入りは確実と言われていて、日米とも満票での殿堂入りが噂されていました。結果はどちらも満票とはならず、そのことについて疑問の声が上がっていることも報道されました。しかし当のイチローさんは、アメリカでの殿堂入りの会見で、記者から満票に1票足りなかったことについてコメントを求められた際、「1票足りないというのはすごくよかったと思います。」と答え、満票に足りないということは自分の努力では補いようがないということを断ったうえで、次のように続けました。

「ですけど、いろいろなことが足りない、人って。それを自分なりに自分なりの完璧を追い求めて進んでいくのが人生だと思うんですよね。これとそれはまた別な話なんですけど、やっぱり不完全であるというのはいいなと。生きていくうえで不完全だから進もうとできるわけで。そういうことを改めて考えさせられるというか、見つめ合えるというか、そこに向き合えるのはよかったなと思います。」

「不完全だと自覚するから進もうとできる」イチローさんの言葉は、圧倒的な力で私の心に刺さりました。

「自分には足りないものがある」という自覚が成長を促すきっかけになることについては、古来様々な形で語られてきました。古代ギリシアの哲学者ソクラテスが唱えた「無知の知」という概念もその一つです。日本でも、国語の教科書に掲載されることも多い政治学者丸山真男は、その著書『日本の思想』の中で、「自分は自由であると信じている人間はかえって、不断に自分の思考や行動を点検したり吟味したりすることを怠りがちになるために、実は自分自身のなかに巣食う偏見からもっとも自由でないことがまれではないのです。逆に、自分が「捉われている」ことを痛切に意識し、自分の「偏向」性をいつも見つめている者は、何とかして、ヨリ自由に物事を認識し判断したいという努力をすることによって、相対的に自由になり得るチャンスに恵まれていることになります。」と述べています。

今から40年前、ひととおり受験勉強をして大学に入学した私は、それなりに物を知っていると自惚れていました。しかし、その鼻っ柱は、入学早々にへし折られました。大学での学びは、自分がいかに無知であるかを思い知らされることばかりでした。大学を卒業して教職の道に進んだ私には、日々の授業準備などのため、否が応でも本を読む機会、学ぶ機会がありました。しかし、本を読めば読むほど、学べば学ぶほど、自分はいかに知らないかということをますます思い知らされています。

イチローさんのインタビューを聞いたとき、あのイチローさんでさえ自分への不全感を持っているのかということに驚きとともに少し安心を感じ、また同時に、大学を卒業するときに指導教官から贈られた言葉を思い出したのでした。それは、ここ松山でその生涯を閉じた放浪の俳人種田山頭火の俳句でした。聞いた当時よりも、時がたつにつれ、その言葉の深さが実感されます。

「分け入っても分け入っても青い山」

皆さんがこれから進む道は多岐にわたりますが、すべての道は果てしなく奥が深い道です。その奥深さに足がすくむこともあるかもしれませんが、よく目を凝らせば、至る所にワクワクが満ち溢れているはずです。そして、何よりも、その道は皆さん自身が選んだ道です。

卒業おめでとう。さぁ、行ってらっしゃい。

名残は尽きませんが、巣立ちゆく346名の卒業生の皆さんの御多幸と御発展を心から祈念し、式辞といたします。

令和7年3月1日

愛媛県立松山南高等学校長　島瀬　省吾